

令和6年度 自己評価・学校関係者報告書

令和7年 4月 1日
亀田幼稚園

1. 本園の教育目標

「自由にのびのび大きく育てたい」
「お友達と協調し元気に仲良く沢山遊べる子」

2. 本年度重点的に取り組む目標

・地域や保護者との連携を深めた園行事の展開 ・音楽活動を通しての情操教育
・英語教室を通しての学習経験の獲得
・教職員の教育意識向上 ・災害・防犯対策への継続的な意識と設備の見直し

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(評価 A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・改善すべきである)

評価項目	評価	取り組み状況
1 ・地域や保護者との連携を深めた園行事の展開	A	運動会・お遊戯会・音楽会等、昨年に続いて、保護者参加型になるように園行事を進めるとともに、卒園生・地域とも連携した、新たな園行事を執り行った。
2 ・音楽活動を通しての情操教育	A	年度末の音楽ホールでの発表会に向けて、音楽専門講師の指導の下、楽器に触れ、音楽への関心、技術向上を目指し、日々音楽の楽しさを知り、情操教育に繋げた。
3 ・教職員の教育意識向上	A	園外の研修に参加し保育観の意識向上や、職員同士の共有を定期的に行い、チームでの協働や課題解決への意識を高めた。
4 ・英語教室を通しての学習経験の獲得	A	ネイティブな専門講師によるやり取りを通して、「英語＝楽しい」となるよう体験を積み重ね、多言語に自然に触れ言語獲得の土台とした。
5 ・災害・防犯対策への継続的な意識と設備の見直し	A	消防署・警察署の方を招き、より専門的な訓練指導を受け、事象にあった防災・防犯の意識向上と設備の点検、見直しを図った。

4. 総合的な評価結果

(評価 A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・改善すべきである)

評価	理由
A	<p>本年度は上記5項目を重点的に取り組みました。</p> <p>各項目において、子どもたちの成長や学びを中心に据えた保育が実現され、教育目標である「自由にのびのび大きく育てたい」「お友達と協調し元気に仲良く沢山遊べる子」の姿に近づくことができました。</p> <p>保護者や地域との連携では、従来行事に加えて新たな関わりの機会を設けることができ、園全体のつながりがより深まりました。</p> <p>また、専門講師による音楽や英語の活動は、子どもたちの表現力・感性・言語への関心を育む重要な要素となり、日常保育の中にも自然と反映されていきました。</p> <p>教職員の研修参加や振り返りを通じて、保育への意識も一層高まり、互いに学び合う文化の醸成にもつながりました。</p> <p>さらに、防災・防犯面でも実地訓練や設備点検を重ねたことで、職員・子ども・保護者を含めた安全意識が高まり、日常の安心・安全に直結する取り組みとなりました。</p> <p>以上のことから、今年度の取り組みは総じて十分な成果が得られたと評価いたします。</p>

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	一人ひとりに応じた支援体制の強化	子どもの発達段階や個性に応じた対応力を高めるため、観察・記録の共有を職員間で丁寧に行い、支援方法の多様化を図る。必要に応じて外部機関との連携も検討する。
2	保護者・地域との協働のさらなる深化	保護者や地域の声を保育に活かせるよう、アンケートや対話の機会を計画的に設けるとともに、行事の企画運営においても参画の機会を広げ、協働による園づくりを推進する。
3	ICT活用による教育・業務の効率化	保育記録や連絡帳、写真管理等、園内の情報共有を効率化するためのICTツールの導入・研修を段階的に進め、職員の業務負担軽減と保育の質向上を目指す。

6. 学校関係者評価委員会の評価

本年度も教育目標に沿って、子どもたちの成長を第一に考えた保育が着実に実施されていた印象を受けました。特に、保護者参加型の行事がさらに充実し、保護者からの満足度も高く、子どもたちの意欲や表現力の向上に繋がっていると感じます。

また、英語活動では、専門講師による楽しいレッスンを通じて、子どもたちが外国語に親しむ様子が印象的であり、今後の国際感覚の土台作りとして非常に有意義だと評価できます。

音楽・英語・行事・安全管理といったさまざまな取り組みにおいて、教職員の連携と努力が反映されており、園の一体感や子どもたちへの丁寧なかかわりがよく伝わってきました。

来年度に向けては、保護者との協働やICTの導入など、より一層の発展を期待するとともに、園の強みを活かした取り組みを継続してほしいと思います。